

2024 年度 (令和 6 年度) 学校評価自己評価表

済美	中学校区	校番 7	福山市立	済美中	学校
最終更新日			2025年(令和7年)2月14日		

I 福山市
 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 <small>(21世紀型“スキル&倫理観”)</small>	○課題発見・解決力 ○コミュニケーション力 ○他者とかかわり合う力・心
○「主体的、対話的で深い学び」を実現するために授業改善に取り組み、学力の定着を図っている。 ○児童生徒の活動状況等をHPや便り等で情報発信し、保護者や地域との情報共有に努めると、保護者や地域を巻き込んだ教育活動に広がると思う。	○基礎的・基本的な学力はおおむね定着しているが、それらを活用した思考力や表現力、またねばり強く問題に取り組む姿勢には課題がある。 ○児童会・生徒会の交流を通して、各校において課題を解決し、より良い学校づくりに取り組むことの大切さを感じている。しかし、主体的・協働的に取り組む姿勢には課題がある。	めざす子ども像 <small>(義務教育修了時の姿)</small>	①自らの目標に向かって努力し、チャレンジしている。 ②場面や目的に応じた豊かな表現力を身につけている。 ③他者とかかわり合いながら共感的人間関係を築き、共によりよく生きようとしている。
		中学校区として統一した取組等	○「選択・決定」「対話の充実」「振り返り」をキーワードに授業づくりを進める。 ○「主体的、対話的で深い学び」のある授業づくりの研修 ○児童会・生徒会活動の活性化による規範意識と共感的人間関係の育成

III 自校

ミッション	育成する力 <small>(21世紀型“スキル&倫理観”)</small>	○課題発見・解決力 <small>(問いを持つ 振り返る 見通す)</small>	○コミュニケーション力 <small>(聴く 伝える まとめる)</small>	○他者とかかわり合う力・心 <small>(思いやり 社会性 貢献)</small>
○「済美になろう」の精神のもと、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。 ○地域の一員としての役割意識をもって、地域に貢献できる生徒を育成する。	めざす子ども像	1年	活動して気付いた・考えたことなどを振り返り、次の(新たな)目標や課題を見出し、次の活動につなげることができる。	自分の考えを、他者に分かりやすく(例えばの挿入、図表や絵・写真・ホワイトボードの活用、話し方や声のボリューム・トーンの工夫など)伝え、理解・納得を得ることができる。
学校教育目標		2年 3年	活動して気付いた・考えたことやその意味・価値・つながり等を振り返り、見出した次の(新たな)目標や課題を、見通しを立て情報を収集・整理・活用しながら(他者を巻き込んで)解決・達成していくことができる。	自分の考えを他者に分かりやすく伝えながら、質問(反論・同意)・説得・納得等を繰り返しながら、考えを上げ深めるとともに、まとめたり(合意形成)、新たな発想を生み出したりすることができる。
人間性豊かに他者とかかわり、確かな学力を身に付け、夢を語り、自らの進路を切り拓く生徒の育成	現状	テーマ	生徒の主体的な学びを進めるファシリテート	
〈児童生徒〉 ○学力調査結果などから、基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分で、出題内容を正しく理解し思考することに課題がある。 ○教科・領域を問わずすべての授業で学び合いの質の向上に取り組み、自分の思いや、意見を伝えられる生徒は増加しているが、学んだことや考えたことを書いて表現することについては、さらに力を伸ばしていくことが大切である。	〈授業〉 ○単元を貫く問いを吟味し、生徒が主体的に学びに向かう取組につなげている。 ○ペア学習・グループ学習等の学び合いにおいて言語活動を位置づけ、相手の発表・意見や質問などから思考を深められるよう、教職員が一体となって学びづくりを進めている。	内容等	○単元指導計画の工夫 ① 単元を貫く問いや課題設定の吟味(教材研究の充実) ② 生徒相互の学び合いの質の向上 ③ 振り返りの充実	
		めざす授業の姿	○一人一人が自分で考え、間違いを恐れずに意見を交わし、共に学び合っている。 ○学びを振り返り、分かったこと、考えたことを豊かに表現している。	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 済美中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
4	課題発見解決力、コミュニケーション力の育成	★	継続	「授業で考えることが面白い」「他者との対話で考えが深まる」と実感できる生徒の割合を増やす。	①単元構成の改善を図り、単元を貫く「問い」を設定した授業を実施する。教材や子どもへの理解を高める研修の実施。 ②ICTの有効活用を通して、知識・技能の習得の時間を短縮し、思考力・表現力を育成する時間の確保及び質の向上を図る。クエストエデュケーションの導入。	①学びのアンケート「他者の意見を参考に、考えを整理できたり、理解が深まったりする」90%以上。前年度86.6% ②学びの調査結果、県平均(市平均)以上。	【評価指標① 達成率94%】 校内研修で思考ツールの活用例を提案し、授業づくりを進めた。授業交流週間を設定する中で、生徒が主体的に学ぶことができる問いを精選し、授業改善に取り組んだ。 【評価指標②】	3	2	基礎学力の定着を図るために既習問題の活用を実施する。また、着実に基礎学力を高め、得た知識を活用できる「学び合い」を進める。授業交流週間実践し、互いの良さや課題を出し合い、日々の授業に活かす。「学び合い」の理念を念頭に置いて生徒と関わり、ファシリテートを教育活動全体で大切にする。	【評価指標① 達成率96%】 校内研修で学び合いの考え方や手法を共有した。各教科で授業改善を進め、授業交流週間では互いの良い点や課題を出し合った。学び合いを充実させる中で、「問い」と「振り返り」の重要性を再認識した。 【評価指標② 次年度へ】 各教科で確認テストを実施し、漢字と計算の定着度を上げる取組を行った。 ◎生徒の確かな学力につなごうとしているかを検証する必要がある。	3	3	3	ファシリテートのスキルを、総合的な学習の時間を軸に磨いていき、各教科の授業に活かす。「学び合い」の理念を念頭に置いて、さらなる授業改善を進める。基礎学力を高めるための取組を継続的にやっていく。
2	他者とかかわり合う力・心の育成		継続	済美6行動の「人のために動く」活動を活性化させ、生徒の自己有用感を高める。	①行事・部活動・学校活動・生徒会活動等を通して、生徒が自ら考え、主体的に参加できる環境づくりに取り組む。 ②活動の後に振り返りを行うことで、生活の中で人のために動くことを、生徒同士で認め合えるようにする。生徒を教師が支えて、生徒の自己有用感を高める。	①「学級の係や当番の仕事、ボランティアを進んでやっています。」肯定的評価85%以上。※前年度82.6%	【評価指標① 達成率98%】 学校行事や生徒会活動など生徒主体の活動場を仕組んだ。日々の生活における振り返りの共有が不十分。	3	3	縦割り行事で他者と関わり合う機会を増やし、率先して行動できた場面について、教職員はもちろん、生徒同士も肯定的に振り返る活動を行う。	□3学期に自己肯定感を高める取り組みとして、教員が生徒に「ありがとうカード」を渡す取組を行った。 【評価指標80.9%(2学期)】 ◎他者と関わる機会を設け、生徒が考え動く姿や振り返る姿を肯定的に捉え、評価として伝えた。生徒が自分の言葉で振り返りを行い、顧みる機会をもっと増やしていく必要がある。	3	3	3	学年を越えた他者とかかわりや地域とのつながりを深め、生徒の自己有用感を高める取組を継続的にやっていく。
7	信頼される学校づくりの推進		継続	学校が楽しいと思う生徒の割合を増やす。教職員の働き方改革を具体的に進め、やりがいを感じる職場づくり。	①カリキュラム、時間割、部活動等の在り方の見直しを積極的に行う。また見直しをもって計画を立て、時間外勤務時間45時間を超えないようにする。 ②教職員がやりがいを感じられるよう、教職員発の取組を励行し、職場の活性化を図る。	①「学校が楽しいです」の割合を90%以上。前年度88.5% ②「やりがいを感じる」肯定的評価 教職員60%以上。※前年度44.4%	【評価指標① 達成率97%】 時間外在校時間45時間以内の達成率8月末まで4.6%、9月まで4.7%であり、達成率が上昇していない。 【評価指標② 達成率115%】 生徒と一緒に考えたり、研修により新しい発見や取組の発見しがでている。何より、困ったときに相談できる相手がいる。	3	3	①生徒が「学校が楽しい」と感じるために教師が見直しを持った計画を立て生徒とかかわり合う時間を増やしていく。 ②教職員同士で協働的にして業務に取組み、振り返りの中で成果を共有しやりがいを感じられるチームワークを構築する。	□①時間外在校時間45時間以内の達成率は1月までで46%であった。生徒との関わりはしっかり持っている。 ②学年や分掌を中心に協働的に業務に取り組み、声掛けなどを行うことができている。 【達成状況】 【評価指標① 達成率90%】 ◎働きやすい職場環境づくりを計画的に行うことができた。	3	3	3	計画を立て、自分の仕事の見直しをもつことやメモをしっかり取ることなど、基本的な事ではあるが徹底していく。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。